



苦悩を通して歓喜へ (Durch Leiden Freude)

現在、社会で活躍している卒業生は、学生時代は皆同じように、このキャンパスの中で未知なる領域に挑戦し、悩み、もがき苦しみ、努力を継続することによって大きく飛躍していったのではないのでしょうか。新しい未知の領域への挑戦には、必ず迷いと苦しみが伴います。迷いや苦しみが無い挑戦など、本当の意味での未知への挑戦ではないでしょう。

不思議なことに、人間の成長は直線的ではなく、大きな飛躍の前には必ず停滞や退行現象が起こります。このことは、勉強であれ、スポーツであれ、どんな活動にも共通のものです。新しい事柄を理解したり、新たな技ができたりするなどの飛躍的な成長は、停滞期の後に突然起こります。

皆さんが今、壁におち当たりもがき苦しんでいるのであれば、それは新しい未知なる領域に挑戦している証しであり、大きく飛躍する前兆だと考えてください。諦めず、一歩ずつ着実に前に進んでいってください。

壁にぶつかりもがき苦しんでいる時こそ、次なる飛躍の準備段階にあるのだと自分に言い聞かせてください。今の苦しみを通してこそ、成長の喜びと自信が手に入ります。成長という喜びは苦悩を通してしか手に入りません。繰り返しますが、諦めず前に進んでいってください。

(学長・村田 治)

Contents

1	学長のポケット	学長 村田 治
2	特集 世界市民を支える、精神がある。	輝く未来を創造する世界市民たれ
9	スペシャルインタビュー	日野原 重明氏
11	歴代院長らに聞く	関西学院125年の歴史
13	歴代関学ジャーナルで振り返る	関学のあんなこと!こんなこと!
15	関学カプセル	関西学院節目の年の出来事
16	キャンパスニュース	創立125周年記念事業
19	突撃! K.G. CLUB	関西学院同窓会
23	関学ファミリー大集合	夢を描こう! 未来を語ろう!
26	聖書に聞く	院長 ルース・M・グルーベル

特集 Special

世界市民を支える、精神がある。



輝く未来を 創造する 世界市民たれ

125年の歴史の中で、関西学院からは約20万人もの同窓生が輩出し、世界市民として活躍しています。同窓生たちは関学大で何を学び、それをどう生かしているのでしょうか。さまざまな分野で活躍する各世代の同窓生に、学生生活や卒業後の進路などについて語ってもらい、関学生にメッセージを送っていただきました。当時の関学生の様子とともに楽しみなさい。



仲間と刺激し合い 夢のプロへと近づいた 野球漬けの4年間

荻野 貴司さん

PROFILE

2008年法学部卒。在学中は硬式野球部で、1年秋から遊撃手のレギュラーとして活躍。4年春に17盗塁で関西学生野球連盟リーグ新記録を樹立。ベストナイン5回受賞。卒業後、社会人野球のトヨタ自動車へ入社し、外野手に転向。09年ドラフトで、千葉ロッテマリーンズから単独1位指名を受ける。背番号は4。



→リーグ戦の様子



プロ野球の千葉ロッテマリーンズで、「日本一」を目標にプレーしています。

幼いころから「プロ野球選手になりたい」という夢を持ち、小学生の時に野球を始めました。関学大に進学したのは文武両道を実践でき、野球に打ち込める環境だったからです。公立高校出身の私にとって、チャペルアワーはキリスト教の精神を感じる時間で、今でも記憶に残っています。クリスマスツリーの点灯も関学らしくて、毎年楽しみでした。

学生時代は野球漬けの日々。当時は学生会館の東側にあった土のグラウンドを硬式野球部とアメリカンフットボール部が使用していました。部活動に所属していない学生も近くを通ると、練習を見て応援してくれましたね。3年生になる2006年に第3フィールドが完成し、土のグラウンドはG号館建設の工事に入りました。

上ヶ原は坂が多いので、とにかく走り込みました。めちゃくちゃキツかったですが、どんどん体が作られました。リーグ戦は1年生の秋からレギュラーで出場し、4年間で盗塁の新記録樹立や5回のベストナインを受賞。部員には、1学年上に阪神タイガースの清水誉さ

ん(2007年商学部卒)や同期では日本ハムファイターズの宮西尚生君(08年商学部卒)など意識の高いメンバーが多く、みんな負けず嫌いで、チーム内には自然と競争意識が芽生えました。特に宮西君は自分に厳しく、投手としてチームを引っ張ってくれていたのも、「俺もやってやる」という刺激を受けました。宮西君とは4年生の時に大学日本代表に選出されました。同世代のトップ層と野球をして、上には上がいることを痛感しましたし、その中で自分はどうか活躍し貢献できるのかを学びました。この時は米国代表に敵地で勝利。違った視点で日本の野球の良さや勝ち方を感じました。

学生生活の楽しみの一つが昼食。東京庵が行きつけで、からあげ定食が大好物でした。体育会系はみんな、あふれんばかりのご飯大盛りを注文してがっついていたので、暑苦しい光景だったのではないかと思います。

卒業後は社会人野球のトヨタ自動車へ。レギュラーとして日本選手権連覇に貢献し、マリーンズからドラフト1位指名を受けました。プロの世界は外国人選手を含めさまざまな選手がいて、個のレベルが格段に高く、また年間を通じて結果を残してそれを勝利につなげるこ

とが何より重要です。そのため、関学大で学んだ「チームのために自分をどう生かすか」を意識し、自分の特長である「足」を最大に生かしながら、新たなプレイスタイルも常に模索しています。うまくいかないこともあります。それでも自分を信じて挑戦し続け、ファンと一緒に日本一を味わいたいですね。



(写真提供：千葉ロッテマリーンズ)

関学大の良さは、母校愛が強く卒業後も関係が続くことです。いろんな分野で仕事をしている仲間と近況を語り合うと、「俺も負けられない!」と感じ、切磋琢磨していた学生時代がよみがえります。

関学関係者の方の声援は本当に励みになります。たくさんの方の力を加えて、今後も感動を届けられるように頑張っていきます。

この世代の関学生



関 学 生 へ !

夢の実現には継続することが欠かせません。切り替えと集中も大事です。最初は難しくても、頑張って続けていると自然とできるようになります。私が野球漬けの学生時代に勉強にもついていけたのは、これを実践できたからです。夢に向かって一緒に頑張りましょう。

今の夢の源流は 世界を肌で感じた 学生時代の経験の数々

森本 創さん

PROFILE

関西学院中学部、高等部を経て2005年総合政策学部卒。在学中は関学大の初代国連学生ボランティア(現在は国連ユースボランティア)としてベトナムに派遣される。05年に旭硝子㈱に就職。12年に退職し、同年8月から家族4人で世界一周旅行に出発。7大陸7カ国に2〜3カ月ずつ滞在した。13年12月に帰国し、現在は㈱美ら地球に勤務。

→国連学生ボランティアとして派遣されたベトナムで



小学校入学前の息子2人を連れ、家族4人で世界一周をしました。モンゴル、ペルー、カメルーンなど7大陸7カ国で長期滞在し、想像を超えた世界の面白さに触れました。現在は美ら地球で、「世界中の人々が訪れたい、住みたい、住みたいようなクールな田舎を創ること」を目指して地域活性化の仕事をしています。

私は中、高、大学を関学で過ごしました。中学時代の財産は、礼拝での先生方の話を日々の行動に落とし込めたことです。1年生の時に阪神・淡路大震災を経験した私にとって、礼拝は自然と心の支えになっていました。また、希望者が参加できるインド親善旅行ではマザー・テレサと話したり、インドの現状を肌で感じたりと国際感覚が養われました。

高等部ではテントを担いで一人旅することに熱中し、チャレンジ精神や行動力に火がつけました。みんなが好きなことに打ち込める自由な雰囲気が高等部の魅力ですね。

大学は総合政策学部へ。当時の神戸三田キャンパスは理学部(現/理工学部)の移転前で総合政策学部のみでしたが、教職員と学生が一体となってより良い環境をつくらうという気概を感じました。他の人にはない才能やセンスを持っている仲間がたくさんいて、触発し合えましたね。男子校育ちの

私にとって共学は新鮮で、恋愛にもワクワクし、妻とも出会えました。彼女も中国人留学生と共同生活するなど、多文化に囲まれながら学生生活を過ごしたようです。

長期休暇には、毎回テーマを決めて海外に滞在しました。インドでヨガや瞑想の修業をしたり山奥で村民と共同生活をしたり、またマケドニアでは紛争難民支援のNGO活動への参加などいろいろと挑戦しました。関学大の初代国連学生ボランティアとして、ベトナムの政府機関で半年間の勤務もしました。これらの経験から、死にそう人や苦しんでいる人を救うことにパッションを感じることに気づきました。

将来は直接的に平和に携わる仕事がしたい。ただ、国連やNGOが取り組む課題の根本には資本主義が影響していることから、まずはビジネスを学ぶために旭硝子㈱に就職。営業では実績を認められて社長表彰を受けました。結婚子どもが生まれ、安定した日々でしたが、「30歳までに世界を一通り見る」「多様な価値観や文化に触れる子育てをする」ことを目的に世界一周旅行を決意し、8年間勤めた会社を退職しました。

旅は2012年に出発。滞在国は先住民がいるなど独自の文化が残っている国を選びました。情勢が不安定な国も多く、到着前日に滞在都市と住居が



↑トルコ・イスタンブールを訪れた時の記念写真

決まることもあり波乱万丈でしたが、苦労よりも楽しみでした。各国の幼稚園に通った息子たちは「言葉が分からなくても友人はできるよ」とたくましい姿を見せてくれました。

今年の10月に神戸三田キャンパスで、私の経験を在學生に講演する予定です。久々の母校で後輩と交流できるのは楽しみです。関学の「Mastery for Service」は世界に誇れる精神だとあらためて感じています。これから受け継がれ、地の塩、世の光となる人物がたくさん出てほしいですね。

何かを成し遂げるには決断することが大切です。今後も子育てに注力しつつ、常に新たな一歩を踏み出して、夢である「社会問題を直接的に解決する仕事」をしていきたいです。

この世代の関学生



関 学 生 へ !

私から4つのアドバイスがあります。①バイトはしない。1時間を約800円で売るのはもったいないです。社会勉強はほかの方法でしよう。②たくさん好きを恋愛をする。就職の前にインターンシップをしたり、複数の会社の面接を受けたりすると同様です。どんなに優れた人でも恋愛や結婚は訓練が必要。③仕事で使えるレベルの英語を習得。留学以外にも、日本のシェアハウスで外国人と生活するなど、方法はいろいろあります。④観光ではない海外の長期滞在の機会を。お金を払って現地の観光関連の人々と交わるだけでなく、NGO活動などを通じて滞在することで、「暮らし」を体験してください。

1989～

恵まれた

NPO法人日本バリアフリー協会 代表理事

大学の環境で育まれた 自信とチャレンジ精神

貝谷 嘉洋さん



↑卒業式での記念写真

PROFILE

1993年商学部卒。筋ジストロフィーのため、14歳から車いす全面介助の生活となる。関学大卒業後、米国カリフォルニア州バークレーで自立生活を始め、99年、カリフォルニア大学バークレー校ゴールドマン政策大学院修了。2004年、上智大学文学研究科博士後期課程修了。NPO法人日本バリアフリー協会を立ち上げ、代表理事を務める。

日本バリアフリー協会を創設し、代表理事を務めています。主な事業は、音楽を通して障がい者の社会進出の拡大を目指すゴールドコンサートの運営や障がい者に関わる総合学習の支援です。

私は生まれつき筋ジストロフィーで、14歳で自立歩行が不可能になり、日常生活のほぼ全てで介護が必要になりました。受験生だった1980年代後半は、社会全体でバリアフリーが進んでおらず、障がい者を受け入れてくれる大学も少ない状況でした。それでも「大学で学びたい」という強い希望を持っていた私の目に飛び込んできたのが、障がい者の学習環境が整っていた関学大です。関学大はすでに筋ジストロフィーの方が卒業されていたので、それも大きな励みになりました。

学生時代は昭和から平成になったところで、バブル景気の真ただ中。経済は右肩上がり、パソコンが一気に普及しました。マイカーを持っている学生も多かったです。学生はみんな明確な夢を持ち、出世欲が強く勢いがありましたね。私も公認会計士を目指して勉強し、囲碁部や会計研究会の活動にも励みました。

そんな私の人生を変えたのは、障がい者問題

をテーマにした「総合コース」を受講したことです。海外の状況や実際に障がい者が活躍している姿を学び、たくさんの刺激を受けました。特に、障がい者自立生活で先進的な街であるカリフォルニア州バークレーの存在を知ったことは、卒業後に渡米する大きな動機になりました。

重度の障がい者が大学に行くことが珍しかった当時、孤立してしまうことも多々ありました。それでも学生生活を続けられたのは、ゼミの仲間たちのサポートがあったからです。自分がもうけてなんぼという社会の雰囲気の中で、みんな私のために良くなってくれました。当時としてはかなり恵まれた環境で過ごせた4年間は、大きな自信となりチャレンジ精神が養われました。

卒業後もどんどん挑戦しました。まずは渡米して一人暮らしを開始し、カリフォルニア大学バークレー校の大学院で障がい者に関する政策を研究。街の環境や政策はもちろん、障がい者自身の考え方が日本よりはるかに自立していることに衝撃を受けました。大学院修了後は、手先だけで運転できるジョイスティック車を運転して、アメリカ一周ドライブを達成しました。2000年には日本バリアフリー協会を設立。03年には障がい者音楽祭ゴールドコンサートを立ち上げま



↑10周年記念ゴールドコンサートでの舞台あいさつ(撮影：大高英樹)

した。昨年で10回目を迎え、今年は関西で予選を実施するなど規模を拡大しています。

関学大にはゴールドコンサートで協賛金の協力をいただくなど、関係が続いています。今年7月には、同窓会東京支部から「K.G.Tokyo Crescent Award 2014」の奨励賞をいただきました。

日本はまだ意識が遅れていて、障がい者の社会進出や理解を促進するのは本当に難しいです。行政や民間の助成金に頼ることのない事業の確立を目標とし、これからも障がい者が住みやすい社会づくりを目指していきます。

この世代の関学生



関 学 生 へ !

好きなことに打ち込み、とにかくチャレンジすることが大事。この社会はやる気さえあれば何でもできる素晴らしい環境です。この環境を最大限に活用して、自分を鍛えてください。それが必ず、自分や社会のためになります！

インドネシアの学生との

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

交流セミナーから始まった国際協力への道

清水 康子さん



→古典芸能研究会での集合写真
(前列右端)



PROFILE

1983年経済学部卒。在学中は古典芸能研究部に所属。政策学博士。NPO、一般企業等での経験の後、94年からUNHCR勤務。ジュネーブ本部、ウガンダ、ロシア、コンボ、アルバニア、アフガニスタン、ミャンマーなどに赴任。現在はUNHCRイエメン副代表。

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) という紛争や政治的事情で自国を逃れた難民の人々に保護、支援を提供する国連団体に勤務しています。現在は中東のイエメンで副代表を務めています。UNHCRには世界中からスタッフが集まるため、いろいろな考え方や感じ方を持つ同僚や現地スタッフと働くことに面白さを感じています。また、現場主義でありながら政策づくりも行い、両方に影響を与えられることも魅力です。

関学大は開放的な考えを持つ先生や学生が多く、保守的な環境で育った私にとって大学での出会いは、人としてもう一度生まれ変わるようなものでした。授業やチャペルの講話を聞くことも好きでしたし、授業の空き時間に行った日本庭園、当時経済学部の地下にあった喫茶店ボブラや古典芸能研究部の部屋も好きな場所でした。

大学時代に最も影響を受けたのは、インドネシア交流セミナーです。同国のサティア・ワチャナ・キリスト教大学の学生らと共同で、インドネシアと日本の問題についてフィールドワーク、議論、研究などを通じて理解を深めました。この経験が将来の進路に直接的な影響を与えてくれました。

卒業後は、高校の交換留学を支援するNPOなどさまざまな職場を日本国内で経験。その後、青

年海外協力隊に参加し、アフリカのガーナに派遣されました。現地では物流や車両配備・整備などのオペレーションを円滑にするための調整業務を担当。派遣期間が残り少なくなるにつれて、「国際協力を仕事としてやっていきたい」と思うようになりました。しかし、当時の私の知識では不十分だと感じたので、ソーシャルワークを研究するためにハワイ大学の大学院に進学。難民について研究する機会を得るなど、だんだんアジアの難民に関心が向くようになりました。

その後は、外務省による国際機関への職員派遣制度であるJPOを通じて、現在の職場であるUNHCRで働くことになりました。1994年からアフリカ、ヨーロッパ、アジアの8カ国で勤務し、難民が自国に帰還した後の支援業務などを担当しまし



↑ミャンマーでリクシャーに乗って買い物

た。国によって異なる課題や問題を抱えており、どの国に行っても初めての経験があります。その分、難しいこともありますが、やっているうちに何をしても好きになることが多いです。大変なときには、「今、重要なことだけに集中する」という気持ちで乗り切っています。

担当した業務の中でも印象に残っているのは、2001年の9.11事件の後に赴任したアフガニスタンでの業務です。同国からイランやパキスタンに避難していた多くの難民の帰還支援を行い、現地の復興に関わりました。しかし、現在に至るまでのアフガニスタンの復興の難しさを見ると、複雑な思いになります。

関学大には、日本に帰国した時に講演する機会をいただけており、現場での経験や政策について話しています。また、06年には総合政策研究科博士課程後期課程を修了しました。関学大ではいい経験ができたという思いが強いので、今でも何らかの形で後輩の役に立ち、お返しできればと思います。

これから、私のキャリアは終盤に向かいます。終息したい気持ちと闘いながら、常に新しい技術や考え方に関心を持ち続けて取り組んでいきたいです。

この世代の関学生



関 学 生 へ !

世代の違う皆さんに何を言えるのか分かりません。ただ、大学の4年間は子どもから大人になる貴重な時間であることは昔も今も変わりません。その時期に関学大で過ごす中で、素晴らしい出会いがたくさんあるはずです。自分自身で納得できる学生生活を過ごしてください。

音楽に没頭した充実の日々 苦楽を共にした仲間は 一生ものの財産

↓宝塚大劇場での演奏会



PROFILE

1974年経済学部卒。在学中は軽音楽部で活動。卒業後、ジャズ界の名門、アロージャズオーケストラを経てソロ活動を開始し、人気歌手のバックバンドなどでも活躍。ニューヨークで数々のジャズセッションに参加し、2001年の初リーダーアルバム「TAKE OFF」をはじめ3作をリリースしている。現在はアロージャズオーケストラのリードアルト奏者。

プロサクソホン奏者として、アロージャズオーケストラでの演奏やソロ活動を行っています。お客さんに楽しんでもらえることが一番の喜びです。

大学受験のころは、全国的に大学紛争の真っ盛り。関学大でも窓ガラスが割られていたり、ヘリコプターが飛行していたりと騒然とした雰囲気でした。入学後すぐに収束しましたが、しばらくは校舎などが破損している状態で授業を受けていました。ただ、学内は落ち着きを取り戻していたので、よく友人と中央芝生に寝転がって語り合ったものです。

大学時代は軽音楽部でディキシードバンドやビッグバンドなどに参加し、音楽に没頭しました。2年生からは、キャバレーなどでプロバンドと一緒に演奏するアルバイトも開始。毎日大忙しでしたが、好きなことに打ち込めた充実した日々でした。関学大は音楽団体の活動が盛んで、学生会館周辺は朝から晩までプップコ！プップコ！と楽器の音が鳴り響いていましたね。海外のロックバンドが大人気で、男子学生の間ではベルボトムという裾広がりのズボンと底の厚い靴を合わせるのが流行っていました。また、このころは近隣の大学とダンスパーティーがあり、ほと

んどの関学生が参加しました。一大イベントの一つで、今でいう大きな合コンって感じかな。

プロを目指す決めたのは4年生の夏ごろ。当時は大阪万博などで日本中が活気にあふれ、就職に困ることが一切ない時代でした。友人も大手企業に次々と内定を決めました。そんな中で悩みましたが、好きな音楽でやれるとこまでやってやろうと意志を固めました。

とはいえプロの道は厳しいもので、卒業後しばらくはナイトクラブの演奏などで食いつなぎました。転機は25歳。アロージャズオーケストラのテストに合格したのです。レベルの高い先輩たちとの演奏は楽しく、どんどん上達し、ジャズ演奏はもとより美空ひばり、山口百恵、ピンクレディー、新御三家など当時のトップ歌手の



↑大学OBビッグバンドジャズ祭りでの演奏

伴奏も担当しました。32歳で退団し、その後は自分がメーンになるバンドを結成。5年ほどやしたがかじんの専属バンドにも参加しました。1990年代に入るとアロージャズオーケストラから「戻ってこい」と声がかかり、活動を再開。ソロ活動も継続し、2000年以降はCDを出したり、米国でレコーディングやライブをしたりしました。米国人は良い演奏にはしっかり反応してくれませんが、悪い演奏にはとことん厳しい。日本では味わえない刺激でしたね。現在はサクセスを通じて仲良くなった唸家の桂南光さんとトークを交えたジャズライブ「桂南光と河田健のほのぼのジャズ倶楽部」も神戸酒心館で開催。今年で26回目、通算で100回近くになり、お客さんには笑いながらジャズに親しんでもらっています。

関学大で苦楽を共にした仲間は一生の財産で、再会すると昔話で盛り上がり、学生時代に戻った気になります。卒業生はみんな母校愛が強く、知らない卒業生から「俺も関学や。応援しているで」などとライブで声をかけてもらうことが多々あります。世代を超えてつながり合えるのは、関学の誇りですね。今後も人々にジャズの魅力を届け、生涯現役を目指して頑張ります。

この世代の関学生



関 学 生 へ ！

昔は好きなことの情報一つを得るだけでも苦労しましたが、今は簡単に多くの情報を得ることができます。だからこそ、それぞれの情報をしっかり自分のものにして、さらに大きく成長してください。

女子学生が珍しい時代 夢中で学んだ会計学を 実社会で応用

ダイヤフーズ(株) 前代表取締役専務

望月 宏子さん

PROFILE

1957年商学部卒。在学中は会計研究会、関西学院聖歌隊に所属し、4年間チャペルオルガニストを務めた。57年に住友電気工業(株)に就職。67年に退職し、加茂守氏とダイヤフーズ(株)を創業。経理を担当しながら、プラスチック卵パックなど数百の特許を取得。2011年3月に代表取締役専務を退任。

▶会計研究会での集合写真(3列目右から5番目)



包装容器の製造、販売を行うダイヤフーズ(株)を創業者の加茂守さんと共に立ち上げました。退任するまでの約50年間、長年担当した経理と併せて、数百の特許を取得しました。スーパーなどでよく目にする卵パックはその代表例で、私たちが世界で初めて開発したんです。会計を追究した人生で、会社を年商46億円の企業へと成長させました。

関学大に入学したのは、終戦から8年後の1953年。日本には連合国軍が駐留しており、私の住んでいた仁川も米国の軍人とその家族がたくさん住んでいました。当時は男子でもなかなか大学に通えない時代で、商学部の同級生で女子学生は私だけ。大学全体でも女子学生は20人もいなかったと思います。男子が詰め襟の学生服、女子に制服はなかったのて黒か濃紺のスーツを着ていましたね。

関学大は優秀な先生が多く、商学部では最先端の会計学を学びました。特に、戦後の日本における会計学の第一人者である青木倫太郎先生の講義は、実社会でもすぐに通用するレベルで、夢中で受講しました。さらに会計学を学ぶために、3年生では青木先生のゼミに入りました。基礎から応用まで徹底的にたたき込まれました。

会計学の知識は会計学研究会でも深めました。自分たちで毎回テーマを決めて勉強し、意見交換す

るなど学生ながらに頑張りましたね。また、定期的に全国各地の大学で発表し、訪問先の大学生と学び合いました。

音楽が好きだったので関西学院聖歌隊にも入部。女子部員が足りず、先生方の奥さんもたくさん参加していましたよ。クリスマス礼拝でよく歌ったものです。また、チャペルアワーでは4年間、オルガニストを任せられました。日々の生活からキリスト教の教えや“Mastery for Service”など関学の精神が自然と染みついていました。

当時は就職難で、ましてや4年制大卒女性を募集している会社はありません。そのため、個人的なつながりを頼りにするしかありませんでした。私は縁があり住友電気工業(株)に入社。経理部に配属され、子会社や関係会社などの業績チェックや中長期計画を立てるサポートをしました。上司にも恵まれ、充実した日々でしたが、当時の大企業で女性管理職になれることは絶対になく、仕事で大役を任せられることもありませんでした。

そんな時に仕事で知合った加茂さんがプラスチック製品で事業を考えていて、私の会計能力に目をつけて「一緒に会社をやらへんか」と声をかけてくれました。すごく悩みましたが、「自分の会社で会計を追究したい」と思い、2人で会社を設立。一般家庭に

プラスチック製品がない時代だったので、私たちの製品は飛ぶように売れました。特に、卵パックは顧客のニーズをつかみ、瞬間にヒット商品へ。会計で会社を引っ張りながら、特許の取得にも励みました。資本金30万円で始めた会社は、営業所や自社工場も増え、年々成長しました。2011年の退任まで約半世紀、一度も赤字を出さなかったのは自慢ですね。

現在は同窓会の北摂支部で、世代の違った同窓生との交流を楽しんでいます。青木ゼミの仲間とも必ず毎年1回は集まり、思い出話で盛り上がっています。集まればみんなが学生時代に戻ったような気がします。

第一線は退きましたが、まだまだ若い人には負けていられません。旅行、趣味、勉強などやりたいことに挑戦していこうと思います。



↑北摂支部での交流

関 学 生 へ !

私は関学大に入れて本当に良かった。皆さんはこんなに素晴らしい大学に入れたのだから、関学生であることを自覚し、何にでも一生懸命打ち込んでください。また、これからはグローバル化の時代です。私が今の学生だったら必ず海外で勉強していますよ。日本に閉じこもらず、どんどん海外で経験を積んでください。

この世代の関学生



胸に刻まれた

関西学院の精神は

今も実践しています

関西学院中学部(旧制中学)出身で、102歳の今も現役医師として活躍される
日野原重明・聖路加国際病院理事長に、中学部時代のエピソードや関西学院への思いなどを伺いました。



↑中学部時代の日野原氏(中央)

日野原 重明さん

PROFILE

1911年生まれ。29年関西学院中学部(旧制中学)卒業。37年京都帝国大学(現／京都大学)医学部卒業。同大学院(医学)修了。41年聖路加国際病院に内科医として赴任。92年同病院院長就任。現在同名誉院長・理事長。

1924

Q 原田の森時代のキャンパスについて教えてください。

私の父は神戸にあるメンヂスト系の教会(現／神戸栄光教会)の牧師でした。関西学院の神学部講師としており、非常に自由な雰囲気のある関西学院中学部を薦めてくれ、1924年に入学しました。入学者は約250人いました。

現在の阪急電車は三宮から西へも乗り入れています。当時に関西学院があった場所(現／王子公園付近)が終点でした。校門を入ると右手に緑の茂った原田の森があり、そこには瀟洒なハミルトン館がありました。その先に立派な講堂があり、毎日2時間目にそこで礼拝がありました。講堂のステージの上には「Mastery for Service」というスクールモットーが掲げてありました。

中学部の校舎は講堂の先にある4階建ての赤れんがの建物で、私はそこで5年間勉強しました。中学部を卒業する翌年に原田の森から上ヶ原に移転することが決まりました。内村鑑三氏の弟である内村順也先生(英語教諭)が、私を上ヶ原に連れて行ってくださいました。新しいキャンパスとなる地を見ながら、自身の学生生活を振り返ったことを思い出します。



Q 先生との思い出はありますか。

関西学院高等部を卒業したばかりで赴任された矢内正一先生が、僕たち生徒に一番人気がありましたね。当時は中学部の英文文の先生でした。みんなは矢内先生とは呼ばず「正ちゃん」と呼んでいました。先生はその後、中学部長、院長を経て理事長になられました。

私は中学部4年生の時に将来医者になりたいと思うようになり、京大医学部に入るため京都の第三高等学校を受験することに決めました。そのころは塾もなかったもので、必死に自分で勉強した。

たわけですが、矢内先生は私の卒業後、後輩たちに対して「日野原君が勉強して第三高等学校に入ったように、君たちも勉強しないと駄目だぞ」と話されていたそうです。そんなふうに私のことを思ってくれていることがとてもうれしかったです。

矢内先生は私たちが中学部を卒業した後も、私たちのクラスのメンバーが旅行する時にはどんなに忙しくても、それが立山のような遠く場所であっても参加してくださいました。私に多くの影響を与えてくれた先生でした。

もう一人、思い出深いのがオグバーン先生です。米国ノ

イスカロライナにあるトリニティカレッジを卒業後、宣教師として来日し、関西学院の中学部の先生になられました。偶然にも先生と私の父はトリニティカレッジの同級生でした。先生は日本語が全然できなかったため、授業は全て英語。私たちに簡単な英語を書かせたり、詩を朗読させたりして、耳から学ぶ英語を教えてくださいました。キャンパスにあった職員用の宿舎に住んでおられ、その宿舎に私たち生徒を招待してお手製のアップルパイを食べさせてくれました。このように生徒と教師の間が非常に近く、和やかな関係であったのが関西学院の特長だったと感じています。

Q

医師として第一線で働いてこられて、関西学院で学んだようなことが一番生かされているとお考えですか。

関西学院の聖書の時間に学んだ「善きサマリヤ人」の話が非常に印象に残っています。この話は、強盗に襲われ身ぐるみ剥がされて倒れている人を祭司や神殿に関わる人々が助けず通り過ぎた一方で、サマリヤ人だけがその

人を助けたというものです。そしてみんなもこのサマリヤ人のようになりなさいと教えられました。

自分が医者になってあらためて思うのは、どんなに貧しくても、あるいは豊かでも、どんな国籍でも、人間として平等に医療を提供することが必要だということです。関西学院で学んだ「善きサマリヤ人」の話を何度も思い起こしてきました。今、いろいろな患者さんを診ているわけですが、人種を超えて、年齢を超えて、病む人のために生涯をささげるのが私の務めであると考えています。そういう意識、そういうスピリットが、中学部の間に私に植え付けられたのではないかと思っています。

Q

これからの関西学院に期待することは。

グローバルに活躍する人材を育て続けてほしいと願っています。

私が通っていた当時の英語教育はヒアリングをとっても大切にしていました。外国人の先生方から生の英語を聞いたことは、卒業してからも非常に役立ちました。そのおかげで米国に留学した時も、他の日本人留学生に比べて英



↑日野原氏が学んだ神戸・原田の森キャンパス



語のレクチャーや会話に苦労しませんでした。

現在の日本は米国に留学する若者が減っています。その理由の一つは語学ができないからだと思います。それに比べ、韓国や中国、ベトナムなどのアジア諸国の人々は、自国で熱心に英語を勉強しているため、多くの若者が渡米しています。

日本の今の大学教育は英語教育が不十分であるために、若者が留学しなくなったのではないのでしょうか。これからは誰もが母国語と英語を共通語として使用できるよう、国を挙げて取り組まなくてはならないと考えます。

その点、関西学院には古くからグローバルな土壌があります。バイリンガルを育成する教育システムも整っている。この強みを大切に発展させていかなければならないと思います。現在も多くの留学生や外国教員が在籍しています。異なる国籍の学生が同じ寮に宿泊したり、机を並べて勉強したり、一緒にクラブ活動をするということは非常に意義のあることです。

関西学院を出た人は、国籍を超えて世界一になるということを私は学んできました。

したから、後輩の皆さんにも、やはり世界市民になってほしいと強く希望します。

Q

日野原さんにとつて関西学院とは。

医者になって、聖路加国際病院に赴任して、74年になります。今なお働いて102歳を超えました。長寿に恵まれただけ、関西学院の思い出を話すのには私が第一人者じゃないかと自分自身、非常に誇らしく思っているわけです。

関西学院とはと聞かれると、やはりベッツ先生が提唱したスクールモットー“Mastery for Service”が浮かびます。この言葉こそが関西学院の精神であり、いつも私の中にあります。その精神の下で、現在も務めています。また、ランバス先生存在も大きいですね。学生時代、ランバス先生は宣教師だとは知っていても医者であったことは知りませんでした。私自身が医者であるだけに、ランバス先生が医者でありながら世界中で宣教活動や教育に従事したというのは素晴らしいと思います。このように素晴らしい先生方によって支えられてきた関西学院で学べたことに感謝しています。

歴代院長らに聞く 関西学院 125年の 歴史

関西学院は1889年、アメリカ人宣教師W・R・ランバスによって、伝道者の育成とキリスト教主義に基づく青少年教育を目指し、神戸・原田の森の地に創立されました。現在に至るまでの125年間の歴史に詳しい歴代院長らに聞きました。

山内一郎・第13代院長

関西学院の歴史の源流は18世紀のイギリスで起こったメソヂスト運動にさかのぼります。そのメソヂスト運動の指導者であったジョン・ウェスレーの言葉に“The World is my Parish”というものがあります。この言葉は、自分が働き、伝道する場所は礼拝堂の中に限られず、外の世界のあらゆる領域に広がっているということ、さらに愛がなければあらゆる知識は無知に等しく、学ぶこと、知識、愛の奉仕は切り離せない関係にあるということも言っています。ランバス博士はこのメソヂスト教会の教えの下に、世界中で伝道活動をし、1889年に関西学院を創立したのです。創立時は、教師5人と生徒19人の小さな学校でした。



平松一夫・元学長

1960年代に日本は高度経済成長を迎え、変革を求める学生の不満が高まり、全国的に学生紛争が各地で起こるようになりました。関学大でも67年から69年にかけて大きな紛争が起こりました。その時に当時の小寺武四郎学長代行による「学長代行提案」が出され、少人数教育や学部の垣根を越えた総合コースなど大きな改革が進んでいきました。80年代になってからは急速に国際プログラムが活発になりました。第1回のランバスレクチャーでは、ライシャワー元駐日米国大使を招き、その後もカーター元米国大統領などがやって来て、学生と一緒に宿泊して討論する機会が設けられるなど、学生だけでなく教員にとっても非常に有意義な試みでした。

田淵結・宗教総主事

戦争が終わって、新制の中学部、高等部、大学として新しい一貫教育を再開しました。その後、大学は法学部、文学部、経済学部、商学部を開設し、徐々に拡大していきました。学生活動でもグリークラブやアメリカンフットボール部の活動は全国に知られるようになり、“Mastery for Service”を実践する関西学院らしいキャンパスがつくられていきました。





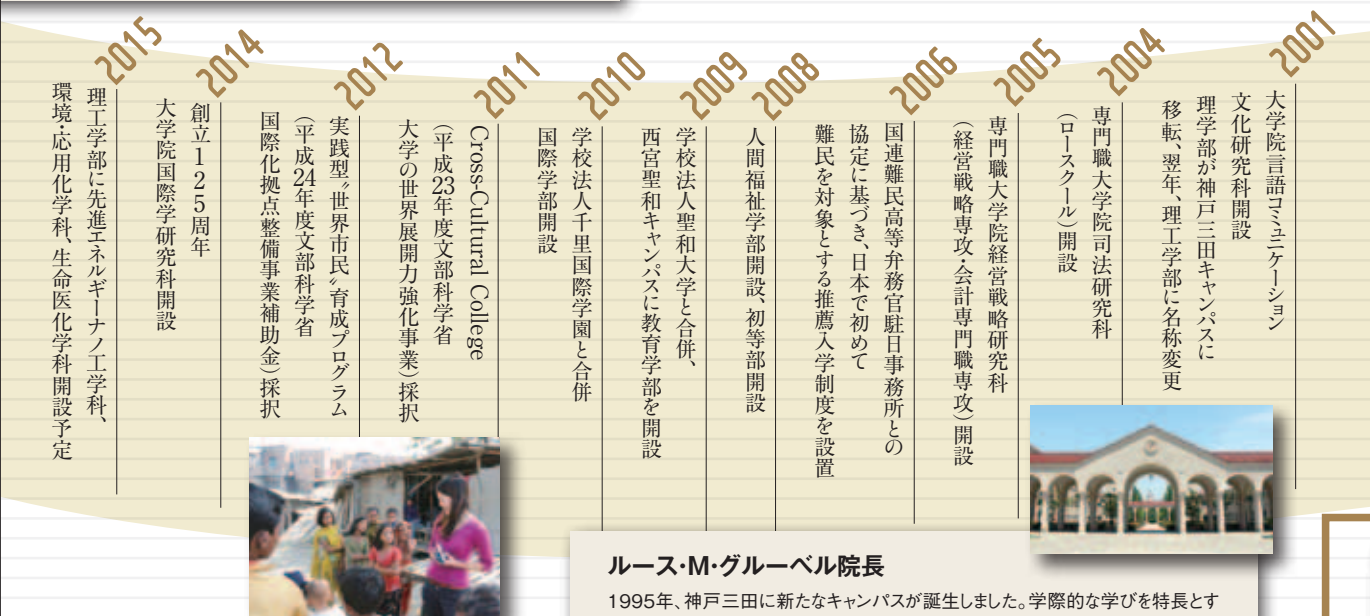
宮田満雄・第12代院長

カナダのメソヂスト教会が経営に参加するようになってから、関西学院の高等学部がスタートし、それが後の高等商業学部につながり、学校として大きく発展するきっかけになりました。特に、商科のカリキュラムは当時、米国式などと呼ばれていたのですが、一般教養に簿記や会計、貿易などが加えられているという、日本では珍しいものでした。関西学院の先生たちは自己の栄達とかビジネスで成功するだけが目的ではなく、良いビジネスマンになる前に、良い人間であれという教えをしました。関西学院のスクールモットーは1912年に後に第4代院長となるC・J・L・ベーツ先生が提唱したのですが、勉強は己のためではなく、人のためにしなさいと話されました。その精神は、今も大切に受け継がれています。



大橋太郎・関西学院同窓会会長 (阪急電鉄(株)相談役)

関西学院は大学の設置を目指していたのですが、大学を設置するには用地が狭く、他の場所に移転する必要があります。一方で、移転のためには資金が足りないという問題を抱えていました。この2つの課題を解決するために現れたのが、当時実業家であった河籬節氏でした。河籬氏の尽力により、阪神急行電鉄専務だった小林一三氏との間で交渉が成立。阪急が、所有していた上ヶ原の土地を関西学院に売却し、原田の森の校地を買収するという条件で、西宮上ヶ原キャンパスへの移転が実現しました。



関学の歴史が詰まった動画 「Be a World Citizen」公開中!

関西学院の創立125周年を記念し、関学の歴史が分かる動画「Be a World Citizen」を関学YouTubeで公開中です。ぜひご覧ください!



URL⇒ <http://www.kwansei.ac.jp/movie>

ルース・M・グルーベール院長

1995年、神戸三田に新たなキャンパスが誕生しました。学際的な学びを特長とする総合政策学部を開設、理工学部も移転し、文理融合型のキャンパスとして発展していきました。その後も大阪や東京にキャンパスを開設。ビジネス・アカウンティングスクールやロースクールなどの専門職大学院も次々に開設されていきました。2008年には人間福祉学部、翌年には学校法人聖和大学と合併し、西宮聖和キャンパスに教育学部を開設します。その後も10年に学校法人千里国際学園と合併し、インターナショナルスクールも学院の一員に加わりました。同年、大学には11番目の学部として国際学部も開設します。こうして関西学院は7つのキャンパスに幼稚園から大学院まで約2万8,000人を抱える総合学園として大きく発展してきたのです。



関学 のあんなこと！ こんなこと！

関学ジャーナルで振り返る

関学ジャーナルは1976年に第1号が発行されて以来、学内の取り組み、学生活動など関学大の旬なニュースを掲載してきました。その中には「こんなこともあったんだ」というような、今では知る機会の少ない出来事もあります。歴代の関学ジャーナルからユニークな内容を一部紹介します。



8号 1977年4月15日発行

きれいな多量の水が校内に湧出
キャンパス美化に一役

ミネラルウォーター並みのおいしい水がキャンパスの片隅から湧き出すという出来事がありました。下宿生用の風呂の建設のため井戸を掘ったところ、1日に800ℓもの水が噴出。また学内に古くからある浅井戸からも1.5倍の水が噴出し、2つを合わせて1日1,800ℓもの水が出ました。水質調査の結果、浅井戸の水は良質。学内施設の浅井戸特設水道への切り替えやキャンパスの環境整備として日本庭園建設の計画が練られました。



1号 1976年4月15日発行

今夏「海外旅行」を実施
欧州の自然と文化を訪ねて

関学大が7月から8月に、保護者、学生、教職員らを対象に開催する欧州旅行の告知が掲載されました。この旅行は「欧州の自然と文化」をテーマに、十分な準備をして研究的に実施し、成果を高めることが目的。主な観光都市は、ロンドン、ベルゲン、ハイデルベルク、ローテンベルク、インスブルック、ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、グリンデルヴァルト、ジュネーブ、パリ。専門分野の大学教授が派遣され、随時説明付き。宿泊は各都市の一流ホテルで3食込み。費用は1人59万7,000円。参加者は研究と併せて、心置きなく豪華な旅行気分を満喫できるように計画されました。



現在は
第37回まで
実施されて
います。



20号 1978年11月30日発行

「正調」版「空の翼」は訴える
変容進む現状に歯止めを!!

音楽美学専攻の畑道也・文学部助教授が「校歌「空の翼」が演奏するクラブごとに少し違っている」と指摘。各団体が使用している楽譜を調べると、微妙に違いが見られ、どのクラブも全て原作と違った譜面を使用していました。畑道教授は「このままでは編曲版のみが存在し、制作当時の曲想を見失ってしまう」と懸念。おのおのが歌いやすいようにリズムを変えたことなどが原因で、応援歌を意識して力強く作られた校歌が、合唱で使いやすい優美な表現になっていました。約2週間、広報室が作曲した山田耕柞氏直筆の楽譜のコピーを希望者に配布しました。

21号 1979年1月19日発行

第1回総合関関戦行われる
27種目にわたり熱戦

第1回総合関関戦が1978年11月29日、30日に関西大学で実施されました。27種目で競われ、関学大は8勝15敗3分けて敗北しました。

45号 1982年6月24日発行

“静かな美”に人気 アルバム委のポスター

卒業アルバム委員会が作ったポスターが反響を呼び、掲示したその日から持ち去られるほどの人気を集めました。このポスターは4年生に個人写真の撮影日を知らせるもの。これまで目に留まらなかったイラストでのデザインをやめ、関学大の女子学生をモデルに作成。コピーも「静かなる美しさに感動」としゃれたものに。すると、用意した200枚は瞬間に持ち去られました。また、2作目も大反響。関学大の女子学生のモデルと「視察瞬間」というコピーで制作され、50枚がなくなりました。卒業アルバム委員会は「狙いは図星」と喜びました。



33号 1980年10月24日発行

キャンパスで生中継 キダ・タローさんが母校訪問

キャンパス内で朝日放送の生中継が行われました。出演したのは、中学部、高等部出身で、大学中退の作曲家、キダ・タロー氏。番組は25年ぶりに関学大を訪問するという設定で、キダ氏はランバス記念礼拝堂でのパイプオルガン演奏などを行い、キャンパス内を紹介しました。撮影でキダ氏は「やはり母校はいいですね」と感慨深げでした。



現在、新月池に
白鳥はいませんが、
カモなど野生の生物を
見るができます。

61号 1984年10月25日発行

新月池に白鳥帰る

新月池では噴水と白鳥が親しまれていました。しかし、1983年に最後の1羽が衰弱死して以来、白鳥の姿が消え、各方面から復活を望む声がありました。千利興産から白鳥寄贈の申し出があり、84年9月、2羽の白鳥が贈られました。



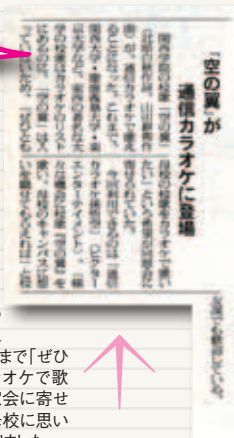
現在は創立125周年記念として、
LIVE DAMでオリジナル映像と
ともにカラオケが楽しめます
(オリジナル映像は2015年3月31日まで)。

147号

1997年1月27日発行

「空の翼」が 通信カラオケに 登場

校歌「空の翼」が初めて通信カラオケで歌えるようになりました。それまで「ぜひとも母校の校歌をカラオケで歌いたい」という声が同窓会に寄せられており、同窓生が母校に思いを馳せる良い機会となりました。



171号

2001年2月13日発行

3拠点結んだ メモリアル・マラソン

21世紀に入った2001年1月1日、メモリアル・マラソンが行われ、学院発祥の神戸・原田の森と西宮上ヶ原、神戸三田の両キャンパスを180人の学院関係者がリレーで結びました。当日は小雪が舞う寒空。アンカーは理事長、院長、学長らが務めました。



205号

2006年10月1日発行

ハンカチ王子にカメラマン“整列”

2006年夏の甲子園を制し、ハンカチ王子フィーバーを巻き起こした早稲田実業高校の斎藤佑樹投手が8月25日、全日本選抜チームの練習のために関学大第3フィールドを訪れました。150人を超える報道陣が詰めかけ、ちょっとした「騒ぎ」ととなりました。



228号

2010年7月1日発行

W杯サッカー応援 巨大ユニフォーム

全国の大学生が企画した「応援援 青い炎プロジェクト」の一環で、サッカー日本代表の巨大ユニフォームが西宮上ヶ原キャンパス中央芝生に現れました。巨大ユニフォームは縦横各25m。全国の学生らが寄せ書きすることで、南アフリカ大会を盛り上げることを狙ったものです。



創立40周年



W・M・ウォーリス

創 立40周年の1929（昭和4）年には創立の地、神戸・原田の森から西宮・上ヶ原へ校地を移転。この時から変わらず、W・M・ウォーリスが構想したスパニッシュ・ミッション・スタイルは受け継がれ、時計台を中心に、中央芝生を挟んで両側に建物が配置されています。



1929年当時のキャンパス全景

創立10周年

創 立10周年の1899（明治32）年、初めて同窓会が開催され、3月5日には同窓会報の第1号も発行されました。この年にはグリーククラブも誕生し、現在まで115年の歴史を刻み続けています。



創立当時の校舎

関学 カプセル…②④

関西学院 節目の年の 出来事

1889（明治22）年に創立され、125年を迎えた関西学院。節目の年のさまざまな出来事を、時代を追って振り返ります。



タイムカプセル

中には創立200周年を迎える将来の関西学院関係者へのメッセージや、100周年オリジナルグッズ、1989年度の大学・高等部・中学部入試問題、当時の生協食堂のメニュー表など、60品目約80点が封入されました。このタイムカプセルは現在も高等部玄関ホールに設置されています。

創立100周年



ランバス記念礼拝堂

戦 後の復興の時代を経た1959（昭和34）年には、創立70周年を記念し、ランバス記念礼拝堂を建設。また、スクールモットー「Mastery for Service」の提唱者のC・J・L・ベーツ第4代院長が創立70周年記念式典に参列し日本語でスピーチをしました。40（同15）年、太平洋戦争の勃発直前にやむなくカナダに帰国して以来、19年ぶりの来日でした。

Mastery for Service
ベーツ院長の直筆

創立70周年

125周年を迎えた関西学院。150年、175年、200年と、将来に向けてますます発展するよう、前進を続けていきます。

中央講堂(125周年記念講堂)が完成

ヴォーリス建築の美しさそのまま 地下にはラーニングコモンズ!

建設時からのキャンパスの設計を継承

西宮上ヶ原キャンパスには、正門から中央芝生、時計台、甲山をつなぐ主軸があり、これに直交する副軸があります。この軸線が西宮上ヶ原キャンパスに秩序と美しさを与えているといわれています(写真参照)。

総務・施設管理部の橋本恭雄次長が「新中央講堂建設に当たっては、W・M・ヴォーリスが設計したキャンパス全体の調和を崩すことなく、新たな価値を付加した次世代につながる講堂をつくることに注力しました」と語るように、新しい講堂は従来通り神学部の正面にくるように配置されています。

ヴォーリスのデザインを生かす

中央芝生に面する建物(神学部、文学部、時計台、経済学部、中央講堂)は、クリーム色の外壁と赤い瓦屋根というスパニッシュ・ミッション・スタイルで統一され、ファサード(正面デザイン)はすべて左右対称。さらに、それぞれのファサードの大きさもバランスが取られているのが特徴です。

「旧中央講堂よりも容積が大きい新講堂をそのまま建てたのでは周囲との調和が崩れてしまう。そこで、ファサードは旧中央講堂と同じものを再現しつつ、新たな機能として設ける東側部分をホール部分に比べて一段奥に下げて、かつ屋根の形状を工夫することで大きさを感じさせないよう配慮しました」と橋本次長。

多目的に活用し世界市民を育む

一方、新講堂のホールは音響設備や映写設備が充実しており、オーストリアから輸入したリーガ社製のパイプオルガンや同時通訳ブースが設置されています。収容人数は1階、2階合わせて約1,200人で、国際的なシンポジウムや講演会をはじめ、式典、音楽会、礼拝など多目的な活用が可能です。客席の前4列分の床は上下に可動する構造となっており、用途に合わせてステージの広さを変えられます。最大の広さにした場合は三管編成が演奏できるほどになります。

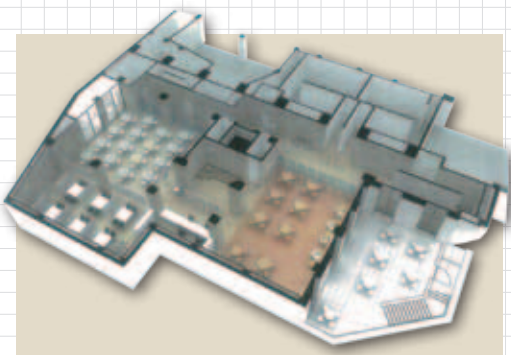
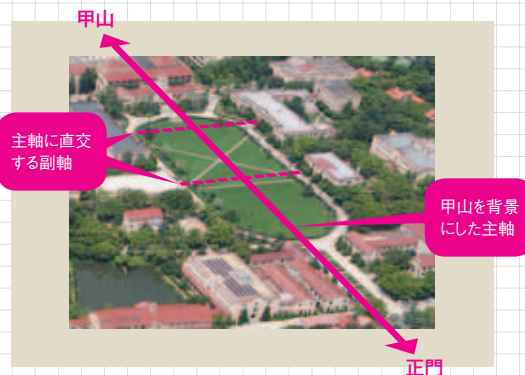
2階には控室が3室設けられ、楽屋、会議室などとしても利用可能。うち1室は同じくヴォーリスの設計による学院本館建設当時からあるシャンデリアを再利用し、当時のイメージを再現しています。

学生の学びの場ラーニングコモンズ

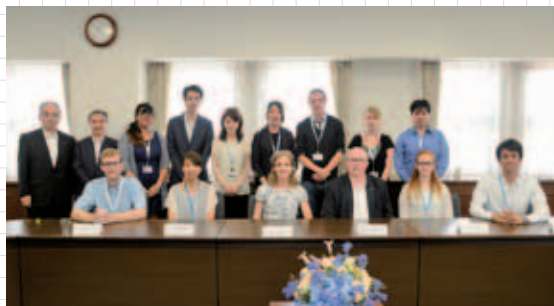
新講堂東側部分の1階には生協店舗が入り、地下がラーニングコモンズになっています。ラーニングコモンズでは、可動式で組み合わせることで少人数から多人数まで対応する机、PCやプロジェクター、可動式のホワイトボードなどが利用できる予定。「ラーニングコモンズは、学生同士の交流の拠点、主体的な学びの場として大いに活用してもらいたい」と橋本次長は話します。

この東側部分はサンクンガーデン(地下の広場)を設け、光を取り込んだ明るい雰囲気になっており、東出入口のエントランスホールには、千刈セミナーハウスのチャペルで使われていたステンドグラスが輝いています。

関西学院創立125周年記念事業の一つである中央講堂(125周年記念講堂)建設工事の竣工式が9月27日に行われました。W・M・ヴォーリスが設計した中央講堂の外観を踏襲しながらも、現代のホールとしてふさわしい機能や設備を盛り込むとともに建物の耐震性を高め、ラーニングコモンズも内包した新たな講堂を紹介します。



キャロライン・ケネディ駐日米国大使が 来校し学生らと交流



ケネディ駐日大使(前列左から3番目)を囲んでの記念撮影

キャロライン・ケネディ駐日米国大使が7月11日、西宮上ヶ原キャンパスを訪れました。ルース・M・グルーベール院長らの出迎えを受け、関学生や米国からの留学生ら11人と交流の時を持ちました。

交流会の冒頭で村田治学長は「関学大は米国の宣教師によって創立され、今では毎年何十人もの学生が米国の協定大学との間で交換留学するなど、米国との関係は緊密です。創立125周年の機会にケネディ大使に訪問いただけたことを名誉に思います。学生らと海外留学の重要性、世界市民になるための目的などについて、活発で有益な意見交換になることを期待します」と英語であいさつしました。

した。

ケネディ大使は「創立125周年おめでとうございます。これからの日米関係は、あなたたち若者が担っていかねばなりません。留学生を日米相互に増やしていくことは大切で、私たちもサポートしていきたいと思います」と話しました。

国際学部4年生の菱田未沙来さんは「2年前に米国留学し、日本人が海外から日本を見ることの大切さを知りました」と話し、今夏の渡米や今後の夢などについて語りました。

他の日本人学生らも留学先での経験を、米国からの留学生は来日した目的や日本での生活を紹介し、会場は笑いに包まれるなど終始和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

インタビュー動画「K.G. World Citizens」

インタビュー動画「K.G. World Citizens」では、勉強、研究、クラブ活動、ボランティア、留学などさまざまな分野で活躍する関学生や教職員を125人紹介しています。特別サイトからご覧ください。



<http://www.kwansei.ac.jp/movie/>

関西学院創立125周年 記念音楽祭を開催



「関西学院創立125周年記念音楽祭」が8月23日、大阪・フェスティバルホールで開催され、約2,000人の観衆で盛り上がりしました。

初等部5、6年生有志によるオープニングチャペル「こころの時間」で1stステージが開幕。2ndステージは関西学院グリークラブによる「関西学院グリークラブアルバム2014」、3rdステージは関西学院交響楽団による「関西学院交響楽団サマークラシックプログラム」と、いずれも創部100年を超える歴史ある団体のス

テージが披露されました。

4thステージは「ベートーヴェン／交響曲第9番 作品125 第4楽章 男声合唱版」、5thステージは創立125周年を記念して新たにオーケストレーションされた校歌「空の翼」が披露されました。両ステージはグリークラブ、交響楽団による合同演奏で、関学大と包括協定を締結した日本テレマン協会の音楽監督である延原武春氏が指揮。締めくくりの校歌「空の翼」は、観衆とともに声高らかに歌い上げられました。

ホームページとFacebookで 125周年記念事業を紹介



「125周年記念事業ホームページ」と「125周年記念事業公式Facebook」では、その他の事業・行事も随時紹介しています。ぜひご覧ください。

西宮上ヶ原キャンパスの 変遷が分かる冊子を配布



※イメージは変更になる場合もあります。

1929年に上ヶ原に移転してからのキャンパスの変遷を年代ごとに紹介した「西宮上ヶ原キャンパスNAVI」を9月28日から配布します。

同冊子は、西宮上ヶ原キャンパスの各スポットを校歌「空の翼」にちなんで、歴

史と自然を感じる「風」コース、キャンパスライフを体感する「光」コース、ヴォーリス建築を巡る「力」コースの3コースで紹介。最新のキャンパスを散策しながら、当時を振り返ることができます。関西学院会館で入手できます。

大学図書館特別展示会を開催 印刷技術と聖書～「読む」キリスト教への変容～

「大学図書館特別展示会」を10月8日から14日まで、丸善・丸の内本店で開催します。今回の展示では、慶應義塾図書館に所蔵資料出品の協力を得ています。

15世紀、活版印刷という当時の最新技術を使って最初に発行されたのは聖書です。希少で高価だった聖書や信仰に関する書物が、徐々に多くの人が手にすることのできるものになりました。それとともにキリスト教は書物や知識を重視する宗教へと変容し、信仰の内面化、個人化も進みました。展示会では、印刷技術がキリスト教に与えたインパクトをさまざまな側面から紹介します。

※一般入場可、無料、事前申し込み不要

日時／10月8日(水)～14日(火)9時～21時(最終日は16時まで)

場所／丸善・丸の内本店(丸の内oazo)4階ギャラリー

主催／関西学院大学図書館

協力／慶應義塾図書館

協賛／丸善(株)・大日本印刷(株)

問い合わせ／関西学院大学図書館運営課 ☎0798-54-6121

アメフト部FIGHTERSが米国の名門プリンストン大学TIGERSと対戦します！

アメリカンフットボール部FIGHTERSが2015年3月21日、「関西学院創立125周年記念試合」として、米国の名門プリンストン大学TIGERSと日米交流戦を行います。

両校の対戦は、関学創立111周年記念として01年3月に実施されました。その際は、大接戦の末に関学大が25-27で敗れました。

今回のゲーム開催は創立125周年記念行事の最後を飾るビッグイベントです。FIGHTERSは、本場米国のチームに全力で挑戦することでさらなるレベルアップを図り、日本アメフト界の発展につなげていきたいと考えています。

プリンストン大学は、世界の大学ランキングで常に最上位に位置する名門校で、アメフトにおいても米国史上初めて、現在の競技

の原型となるゲームを1869年にラトガース大学と行った「ルーツ校」です。現在はアイビーリーグ*に所属し、2013シーズンは8勝2敗(リーグ内6勝1敗:同率1位)の好成績を収めています。

当日はぜひ会場に足を運び、トップクラスのゲームをお楽しみください！

日時／2015年3月21日(土) 午後(時間未定)

場所／キンチョウスタジアム(大阪市長居球技場)

詳細は、アメリカンフットボール部のホームページ等を通じて順次お知らせします。

<http://www.kgfighters.com/>

(写真協力:タッチダウン(株))



※アイビーリーグ(Ivy League) NCAA(全米大学体育協会)Div.1AAIに所属。所属大学(ブラウン、コロンビア、コーネル、ダートマス、ハーバード、プリンストン、ペンシルバニア、イエール)は世界トップクラスの学力水準を保有し、スポーツ能力に応じた入学や奨学金支給を一切行わないという協定を結んで運営されています。



突撃! K.G. CLUB *by KGB Special!*

このコーナーでは、KGB総部放送局が関学のイキイキとした姿をお届けしています。今回は創立125周年を記念したスペシャルバージョンです！関西学院同窓会が主催した「オール関西学院フェスティバル in UNIVERSAL STUDIOS JAPAN」に密着し、関学ファミリーの様子をレポートします！

（ 関西学院同窓会 ）

オール関西学院フェスティバル in UNIVERSAL STUDIOS JAPAN

創立125周年を記念して、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンを貸し切り！関西学院同窓会が関学ファミリーの絆を深めるために企画し、同窓生や在校生、その家族など約1万6,000人もの人々が参加しました。当日は快晴で、2014年の最高気温31℃を記録しました。17時30分と19時15分に記念式典が実施され、20時以降はアトラクションが貸し切りに。ターミネーター 2:3-Dが特別バージョンで実施されるなど、パーククローズの22時まで大いに盛り上がりました。

日時

2014年5月31日 14時～22時

場所

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

参加者

約1万6,000人

対象

同窓生、在校生、教職員、家族など



同窓会にインタビュー

イベントはどうでしたか？

同窓会だけでなく、オール関西学院として創立125周年をお祝いしたいと思い、このイベントを企画しました。今まで同窓会のイベントは若い世代の参加が少なかったのですが、今回は多くの参加があり、約7割が平成卒の同窓生でした。イベント終了後には、「楽しかったです」「感激しました」などのメールや電話を多数いただきました。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの多大な協力もあり、皆さまに楽しんでいただけた良いイベントになったと思います。

取材レポート

参加は事前申込制で、通常よりも低料金で入場でき、参加者には事前にスタジオ・パス、クレデンシャル、関学オリジナルのボディーペイントシールが届けられました。当日、参加者は入場開始前から大興奮。クレデンシャルを首から下げ、子どもも大人も顔や腕などにペイントシールを貼っていました。家族連れや友達同士はもちろん、全国の同窓会支部からも多くの同窓生が参加。数百年ぶりに再会したという同窓生たちの姿も。それぞれに、最高の日を楽しんでいました。



関西学院同窓会とは…

国内88、海外25の計113支部があり、会員数は20万人を超えます。総会やホームカミングデーなどを開催し、同窓会員相互の親睦と関西学院への発展寄与を目指しています。また企業、ゼミ、クラブなどの公認団体は135あり、さまざまな形で母校の発展に貢献しています。



人 気のショー・アトラクション「ウォーターワールド」を貸し切って実施！式典には多くのサブライズ演出がありました。田淵結・宗教総主事の開会祈祷と大橋太郎・同窓会会長のあいさつの後、ルース・M・グルーベール院長がボートに乗ってサプライズ登場！会場は大歓声に包まれます。その後、応援団総部の指導部とチアリーダー部によるパフォーマンスが行われました。式典の初めには、校歌「空の翼」が斉唱され、会場に関学ファミリーの歌声が響き渡りました。約3,000人による斉唱は大迫力で、一体感を感じました！式典後のショーでは関学トークも飛び出しました。エンターテイナーによる「『かんせい』じゃない！『くわんせい』だ！」というセリフも。まさかユニバーサル・スタジオ・ジャパンでこんな関学ネタが聞けるとは！

記念式典！





20 時からはアトラクションが貸し切りに。大人気のアトラクションをみんなで楽しみました！パーク内は関学ファミリーの笑顔であふれ、中には初めてユニバーサル・スタジオ・ジャパンを訪れたという人も。その楽しそうな姿に、取材中の私たちも思わず笑顔になっていました。

**アトラクション
が貸し切り！**



あ の人気アトラクションがこの日は特別バージョン！何が特別かというと、綾小路麗華によるショーが関学に関するネタになっているのです！まずは、関西学院グリークラブに扮したエンターテイナーと共に綾小路麗華が登場。どの世代の同窓生や在学生も楽しめる

関学ネタやジョークで会場を大爆笑に包みます。トークはどんどんさえ渡り、次々に観客を巻き込んでいきます。「正門前の郵便局の名前は何かしらあ？」「昨年、神戸三田キャンパスにできた施設は何かしらあ？」こんなクイズも出題。最高齢を探す質問には、80代の同窓生も参加していました。

**ターミネーター 2:3-D
特別バージョン！**



**楽しい
ディナー！**

レ ストラン「フィネガンズ・バー&グリル」が貸し切りになるなど、グルメも充実。この日限定の関学特別ドリンクも販売されました！新月を模した飾り付けなど、ディナーでも関学オリジナルの演出がありました。みんな楽しそうな笑みを浮かべ、絆を深める夕食となりました。

インタビュー

ルース・M・グルーベル院長



同窓生、初等部の児童から大学生、家族の方々、そして教職員までと一緒に集まる機会となつて大変うれしく思います。この楽しいひとときは絶対に忘れることのない思い出になるでしょうね。
記念式典ではボートで登場しましたが、とても緊張したんですよ。同窓会が企画したこのイベントには本当に感動しています。

楽しかった一日はあっという間に終わりを迎えます。閉園時間が近づくとみんなたくさんのお土産を持って家路へ。楽しかった一日。またこんな日が来るといいな〜。

さよなら、
楽しかった
一日!



みんなの笑顔!

楽しかった!



久しぶりの
再会ができて
よかった!



感動!



KGB総部放送局

関学大で唯一の放送団体として、アナウンス、ドラマ、技術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています! 興味のある人は、ホームページなどをご覧ください!

HP→<http://www.everyday-kgb.com>
Facebook→<https://m.facebook.com/KGBbroadcast>
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>

ターミネーターで
大笑いしました!



関学の
一体感を
感じました!

西宮上ヶ原キャンパス

世界中で
↓
苦しんでいる人の
力になる！

松本 銀士郎さん
中学部3年生

中学部の授業は、「教科書+a」のことまで教えてくれます。僕の好きな地理では、先生がパワーポイントを駆使して、「なぜこうなるのか」ということまで掘り下げてくれるので、どんどん興味が湧きます。

中学部の代表的な伝統行事は、泥んこになってラグビーをする「メチャビー」と無人島で自給自足の生活をする「青島キャンプ」です。仲間を思いやる気持ちや全てに感謝することの大切さを実感できました。

大学生になったら留学をして、たくさん勉強したいです。将来は“Mastery for Service”の精神を持ち、世界中で苦しんでいる人の力になります。

中学部

←
たくさんの
国と国をつなぐ
懸け橋になる！

汲田 佳央累さん
中学部3年生

中学部ではあいさつ、折り、歌声、笑顔、思いやりの頭文字を並べた「あ-い-う-え-お」を合言葉に、人間性が磨かれています。毎日行う礼拝は生活の一部となり、お祈りで心が洗われてから1日をスタートできています。みんなの中に自然と中学部の精神が宿っていますね。

私たちの学年は中学部共学化の1期生です。中学部には男子校時代の素晴らしい伝統を継承しながら、「共学化で良くなったね」と言ってもらえるように活性化してほしいです。

これからどんどん世界中の文化に触れたいです。そして、国と国をつなぐ懸け橋になりたいです。

世界中に
感動を届けられる
シンガーソング
ライターになる

豊田 正宗さん
高等部2年生



高等部

日本、
そして世界中を
笑顔にする！

前辻 はる香さん
経済学部4年生



大学

高校からチアリーディングを始め、大学でも応援団総部チアリーダー部で4年間、チアの活動に力を入れてきました。

求めれば、いろんなチャンスを与えてくれるところが関学大の魅力。部活動以外でも、英語力向上のためにアドバンスのクラスを取ったりして、学びにも積極的に取り組みました。

チアの活動を通して卒業生の方々と会う機会が多いのですが、母校に誇りを持って話される多くの先輩方との出会いは大きな励みになります。

卒業後もチアは続けたいと思っています。将来は日本中を笑顔に、さらには世界中を笑顔にできる人間になりたいです。

高等部は母校愛が強く、両親が関学出身者という人も多くいます。また、留学生がいたり、英語だけの授業があったりと普段から英語に触れ合えるのも魅力です。部活動も盛んで、全国レベルのクラブも多数あり、文武両道が浸透しています。

将来はシンガーソングライターになるのが夢。今は文化祭で歌ったり、路上ライブをやったりしています。いつか海外にも活動の場を広げ、世界中に感動を届けたいです。

関学ファミリー
大集合

夢を描こう！
未来を語ろう！

“Mastery for Service”の精神の下、それぞれのキャンパスで充実した日々を送っている関学ファミリー。在学生の皆さんに、今、興味を持つていたり学校の魅力、将来の夢について語ってもらいました。

宝塚キャンパス

海外に出て
たくさんの
友人をつくる!



初等部

大森 星空さん
初等部6年生



初等部では関学大の留学生と交流する機会があり、今は海外に興味があります。6年生の修学旅行に当たるカナダ・コミュニケーション・ツアーでは、1年生から勉強してきた英語を使って、ホームステイやカナダの小学生たちと交流して、たくさんの刺激を受けました。すごく楽しかったです。

大きくなったら、いろいろな国や地域の人と友達になるために海外に留学したいです。

多文化を尊重し
新たなものを
生み出す



トリム ジョサイア
Trim Josiahさん
国際学部3年生

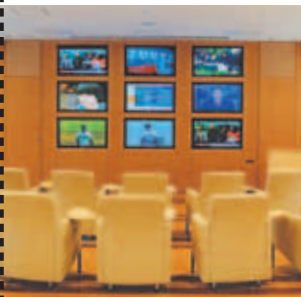


緑豊かで広々とした関学大のキャンパスがお気に入りです。国際学部にはいろんなバックグラウンドを持った人がいるので、いろんな人と触れ合う中で、新しい考え方や価値観に気付かされることも多く、刺激的です。

留学生などの異文化理解を深めるためのサークルを立ち上げるなど、授業以外の活動でもいろんな人と知り合うことができました。

将来は自分の文化と他者の文化を尊重し、いろんな人と触れ合いながら新たなものを生み出せる仕事がしたいです。

大学



医農薬の開発で
より良い社会を
つくる!

今井 康明さん
理工学研究科M1年生



神戸三田キャンパス

先生との距離が近い、指導が丁寧、最先端の研究ができる、アットホームな雰囲気があるのが神戸三田キャンパスの魅力です。向上心のある学生もたくさんいます。私の研究室ではプロセス化学と称する、有機合成における開発方法を研究しています。独自の環境にやさしいプロセス化学が医農薬製造分野に活用され、役立つことを目指しています。常に新しいものをプロデュースしていくのは、刺激的でやりがいがあります。将来は研究者として、医農薬の開発に携わって社会に貢献していきたいです。

大学院



誰かの役に立ち
みんなに笑顔
を届けたい!

辻井 佳奈さん
初等部6年生



初等部には、関学大の先輩がスポーツを教えに来てくれます。チアリーダー部のお姉さんも来てくれて、私が所属している「キッズドルフィンズ」に優しく指導してくれます。

チアのお姉さんたちは選手や観客のために、毎日一生懸命練習をしています。その姿を見て、「誰かの支えになりたい」「勇気や希望を与えたい」と思うようになりました。お姉さんは私の憧れです。私も大きくなったら、誰かの役に立ち、みんなに笑顔を届けられる人になります。

千里国際キャンパス

国際法を勉強して
世界中の人々の
役に立ちたい!

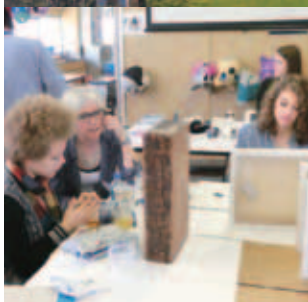


高等部

パーク・鈴捺さん
千里国際高等部 (SIS) 12年生

SISは生徒主体の自由な校風です。何に対しても「よし、やろう!」と集まって、協力し合える仲間がいることが魅力です。毎年2月にOISと共同でミュージカルを公演するなど両校の交流は活発で、みんなで味わう達成感是最高ですね。

SISでは、生徒1人が1国の代表になって国際問題について議論する「模擬国連」という授業があります。模擬国連で国際法に興味を持ち、今では勉強中です。将来は国際法を使って、多くの人々の力になりたいです。



ボランティアを通じて
社会の発展に
貢献する

Melville-Rea,
Hannahさん

大阪
インターナショナルスクール
高等部 (OIS) 12年生



インター
ナショナル
スクール

OISは日本らしさを取り入れながら、英語で授業を行うので日本と欧米の両方のスタイルを感じることができます。みんな意欲的で、先生との距離も近く、アットホームな雰囲気が大好きですね。

OISではボランティアの体験プログラムがあり、みんなボランティアに対する意識が高いです。私は東北やパリでボランティアをしました。現在はエコクラブの部長となり、不用な紙を業者に売って、その資金でホームレス支援をしています。これからもボランティアを通じて、世界をより良い社会にしたいです。

西宮聖和キャンパス

サッカー
するのが
好き。

家庭にある
鉄棒が
好き。

ネコが
好き。

ままごと
するのが
好き。

野球選手に
なりたい。

世界の人と
仲良く
なりたい。



聖和幼稚園の園児たち

幼稚園



短期大学



西宮聖和キャンパスは緑が多く、落ち着いた雰囲気の特徴です。教育分野の資料が豊富で、勉強もはかどります。聖和幼稚園から子どもたちが遊びに来ることもあります。

聖和短期大学の先生は、幼児教育の現場経験がある方ばかりで、実習や将来の悩みなどに対して具体的にアドバイスしてくれます。先生と学生の距離が近く、さまざまなことを吸収できるのが最大の魅力ですね。みんな同じ夢に向かっているの、一緒に勉強したり、励まし合ったりしています。

将来は、保育士になって、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添っていきたいです。

一人ひとりに
寄り添える
保育士になる

土肥 智美さん
聖和短期大学2年生



聖書に 聞く

院長 ルース・M・グルーベル



ローマの信徒への手紙第12章4-6節

というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立
ていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わた
したちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づく
っており、各自は互いに部分なのです。わたしたちは、与えられ
た恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから…

創

立125周年記念号にちな
み、新約聖書「ローマの信徒へ
の手紙」から聖句を選びました。

今日まで継続した関西学院の発
展に尽力されてきた方々、また、現在
この「ラーニング・コミュニティ」を支え
てくださっている全ての方々の「多様
性」にあためて感謝しているから
です。年齢、性別、国籍、社会的立場
などにかかわらず、このコミュニティ
の全ての人が等しく大切な存在で
す。ものの見方や才能がそれぞれ異
なることが、学生・生徒や教職員、同
窓生を活気づけ、さらに関西学院
というコミュニティをより創造的で
力強い存在にしてくれました。一人ひ
とりが持つ可能性を最大限に発揮
することは、社会をより良い方向に
変革できる世界市民の育成につな
がり、関西学院がコミュニティとして
“Mastery for Service”を実践してい
るようになります。

この特別な創立記念日をお祝い
するにあたり、神様が与えられた賜
物(才能、四ツ目)をそれぞれが精いつば
い生かし、他の人々に仕える決意を
新たにしたいと思います。

読者アンケート & プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力
いただいた方の中から抽選で15名様に「創立125周
年記念オリジナルマグカップ」をプレゼントします。締め
切りは2014年12月5日(金)。当選は発送をもってかえ
させていただきます。



◎スマートフォンおよびパソコンの方は

URL→<http://www.kwansei.ac.jp/r/kgjournal/>より

お答えください。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。

▼ 関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム

URL→<http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html>